

I 事務事業基本情報

総合計画統括CD	01 01 03 31	重点政策分類	食	所管部課	経済環境部農務課
事務事業名	伊達野菜ブランド化推進事業			担当課長名	佐々木 剛
				作成者名	阿部 員征
総合計画分類	C D	名 称		担当歴	平成 29 年度から
政策	01	産業		電話(内線)	522
施策	01	地域産業の中軸を担う農業環境の整備		事業年度	開始年度 H27年度
基本事業	03	農業生産基盤の整備			終了(予定)年度 H31年度
H29会計区分	1	一般会計		新継区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続
予算科目	款	2 総務費		経費区分	<input type="checkbox"/> 政策 <input type="checkbox"/> 投資 <input checked="" type="checkbox"/> その他
	項	1 総務管理費		補助・単独区分	<input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 単独
	目	7 企画費			
予算書上の事務事業名	伊達野菜ブランド化事業			根拠法令・個別計画等	事業実施の根拠となる法令、条例、規則、要綱及び個別計画を全て記載 伊達野菜ブランド化推進事業補助金交付要領

II 事務事業概要

対象	誰を、または何を対象とした事務事業なのかを具体的に記載	執行形態	事務事業の執行方法をチェック					
	JA伊達市高糖度トマトグループ …高収益作物であり、高度な栽培技術が要求される高糖度トマトの生産に積極的に取り組む農家団体		<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・負担金 <input type="checkbox"/> 市民と協働 (委託・交付先等:)					
目的	当該事務事業が何をねらいとし、対象をどのような状態にしたいのか。また、どのような成果を目指しているのかを具体的に記載							
	当市は野菜栽培の盛んな地域であり、伊達市内で採れる野菜は「伊達野菜」と呼ばれ、多種多様な野菜の産地であることが強みであるが、その反面、中心となる作物がなくブランドイメージの確立が課題である。この問題を解決するため、高収益作物である高糖度トマトの生産体制を構築し、ブランド化・産地化の推進と併せて、農家の所得向上を目的としている。							
	成果指標名	単位	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 目標値
	「目的」がどの程度達成されたか(成果)を測定できる適切な指標(数値等)を最低1以上設定して記載							
成果	① 生産額(ハウス1棟当たり)	千円			542	524	889	800
	② 生産者数	人			7	8	9	20
	③ 生産ハウス棟数	棟			7	9	10	20
成果指標の考え方・計算根拠等	目標値については、当初の事業実施計画に基づき設定。 ハウス1棟当たりの精算額については、JAから提供のあった取扱実績表に基づき算出した。							
総合計画の成果指標に係る活動成果	重点政策(食・教育・生きがい・環境)については、総合計画「Ⅲ-2重点政策」(P16~P23)で定めた成果指標について記載							
手段	上記目的を達成するために、どのような方法で事務事業を実施したのかを具体的に記載							
	・ハウス内に循環扇を設置することで病害等の予防を図り、安定定期的な生産体制の構築を行った。 ・販路拡大、取引価格の向上のため、市場との商談を実施。 ・平成29年度末に選果機を導入し、人件費と労働力の軽減及び選果体制の強化を行ったことで円滑な生産につなげている。							
	活動指標名	単位	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 目標値
	「手段」として提供した行政サービスや活動の実績を指標(数値等)に表して記載							
活動実績	1 高糖度トマト栽培装置導入棟数	棟			7	9	10	20
	2 販路開拓・商談件数	件			2	4	1	2
	3 パート雇用件数	件			7	7	7	15
活動指標の考え方・計算根拠等	1. 栽培装置目標値については、当初の事業実施計画に基づき設定。 2. 販路開拓・商談件数については、現在の販路維持のために1回、新規開拓のために1回の計2回とした。 3. パートの雇用については、生産者の目標値を基に実績から割りかえて算出。							
事務事業の現状と課題	事業の現状と事業を進めていくうえで課題となっていた事項を記載							
	・段階的な生産者の確保と栽培規模の拡大。 ・品質の向上及び栽培技術の生産者間での平準化。 ・より高値で安定的に取引が可能な販路の開拓。							
改善点	上記の現状と課題に対し、当該年度の重点取組み事項、設定した目標を具体的に記載							
	・高収益作物であることを販売実績で示しつつ、次年度以降の生産者確保に向けた取組を行う。 ・ブランド化、高収益化を図るためには、生産者間の技術の平準化と向上が必須であるため、普及センターの協力を仰ぎながら、生産者間で情報を共有しながら取り組んでいく。							
	上記の重点的取組み事項、設定した目標に対する改善内容及び検討(実施)中の改善内容及び当該年度を記載							
改善点	<input type="checkbox"/> (平成29又は30年度)既に改善済	<input type="checkbox"/> 事業内容 <input type="checkbox"/> 投入経費 <input type="checkbox"/> 人員の配置 <input type="checkbox"/> その他						
	<input checked="" type="checkbox"/> (平成30年度)改善を検討中(又は実施中)	<input type="checkbox"/> 事業内容 <input type="checkbox"/> 投入経費 <input type="checkbox"/> 人員の配置 <input checked="" type="checkbox"/> その他	・商品価値の高いA品の割合を向上させるため、生産者と関係機関との連携をより一層密にし、管理が徹底された質の高い栽培を行っている。 ・ブランド化及び知名度向上を目的に、伊達産高糖度トマトのネーミングを検討。					

平成 29 年度実施事業

総合計画統括CD	01	01	03	31	重点政策分類	食
事務事業名	伊達野菜ブランド化推進事業				CD	31

所管部課	経済環境部農務課
担当課長名	佐々木 剛
作成者名	阿部 員征

Ⅲ 投入経費 (input)

投入経費 区分	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)
直接事業費 (A) 千円			6,423千円	5,787千円	4,185千円	4,332千円
国・道支出金 千円			6,387千円			
地方債 千円						
その他特財 千円						
一般財源 千円			36千円	5,787千円	4,185千円	4,332千円
参考人件費 (B) 千円			1,159千円	1,147千円	1,135千円	1,167千円
一般職員 千円			1,159千円	1,147千円	1,135千円	1,167千円
一人当たり年間平均給与 千円	5,481千円	5,821千円	5,794千円	5,733千円	5,673千円	5,835千円
投入人員 人			0.20人	0.20人	0.20人	0.20人
嘱託職員 千円						
一人当たり年間平均賃金 千円	2,365千円	2,428千円	2,550千円	2,602千円	2,664千円	2,722千円
投入人員 人						
臨時職員 千円						
一人当たり年間平均賃金 千円						
投入人員 人						
投入経費 C=(A+B) 千円			7,582千円	6,934千円	5,320千円	5,499千円
人件費比率 D=(B/C) %	#DIV/0!	#DIV/0!	15.3%	16.5%	21.3%	21.2%

Ⅳ 一次評価

評価の視点	評価	判断理由 (左記の評価を選択した理由を具体的に記載)
観点別評価	目的妥当性	<input type="checkbox"/> 法律等で義務付けられている <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 今後も市が主体または関与して事務事業を行っていくことは妥当か？ (法律等名称) 地方創生加速化事業として開始した事業であり、5年間の計画に基づき、継続的に取組団体を支援する必要があるため。
	有効性①	<input type="checkbox"/> 目標とする成果が出ている <input checked="" type="checkbox"/> 少し成果が出ている <input type="checkbox"/> 思うように成果が出ない 成果が出ているか？ 1棟当たりの生産額が過去最高となるなど、着実に成果は出つつある。
	有効性②	<input type="checkbox"/> 大きく向上できる <input checked="" type="checkbox"/> 向上できる <input type="checkbox"/> 向上は難しい 成果を向上させることはできるか？ 少しずつではあるが、生産者が増加しており、既生産者の中でも栽培数を増やす者も出てきている状況であるため、更なる生産技術の向上と販路の検討により、ある程度の成果の向上は見込める。
	効率性	<input type="checkbox"/> 経費削減は可能 <input checked="" type="checkbox"/> 経費削減は難しい 妥当な経費で事業が執行されているか？または、成果を落とさずに投入経費を削減することはできるか？ 継続的に事業を実施できるよう必要最低限の経費の支出としており、平成29年度から補助率を一律1/2と引き下げたところでもあるため、経費削減は難しい。
	公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 事業が一部受益者に偏っていないか？受益と負担のバランスは妥当か？ 高糖度トマトは高収益作物である一方、高度な栽培技術が要求されるなど、生産者にも一定のリスクが発生するものであり、このリスクを承知の上でブランド化を目指し栽培を行う生産者を対象としているため。

今後の方向性	方向性の判断理由 (左記の方向性を選択した理由を具体的に記載)
総合一次評価 <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	事業開始から4年度目を迎え、生産者の生産技術が向上してきており、生産者が少しずつではあるが増加し栽培苗数も増加傾向であることに加えて、伊達産高糖度トマトは市場関係者から好評を得るなど、知名度や評判も向上しつつある状況にある。 生産技術の標準化や向上及びネーミングの検討など、ブランド化に向けた更なる取組が必要であるため。

担当課長コメント	事業の進捗状況及び今後の展望等について記載
	選果機導入等により出荷体制・出荷量の充実により一定の成果が出ている。出荷量増に伴い商品価値を高めるためネーミング選定作業を行うなど今後期待したいが、一方で更なる生産者個々の品質向上や出荷先の確保などJAの取組を加速させる必要がある。

◆ 事務事業評価会議の検討内容

平成 29 年度実施事業

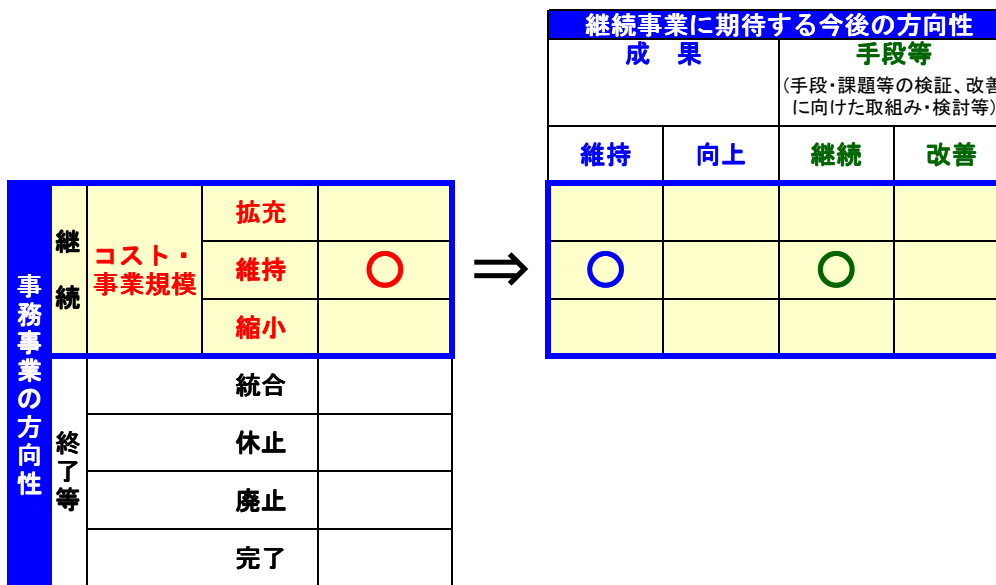
総合計画統括CD	01	01	03	31	重点政策分類	食
事務事業名	伊達野菜ブランド化推進事業				事業CD	31

所管部課	経済環境部農務課
担当課長名	佐々木 剛
作成者名	阿部 員征

1 二次評価

評価項目	評価の視点			評価
	評価の凡例	評価項目の求める水準を達成している。	○	
観点別再評価	目的妥当性	今後も市が主体、または関与して実施することが妥当である。		○
	有効性①	成果が出ている。または、事務事業の目的が達成されている。		○
	有効性②	評価の凡例	大きく向上できる	○
			向上を期待できる	△
	効率性	妥当な経費で事業を執行している。		○
公平性	受益と負担のバランスは適当である。		○	
事業ランク評価	総合計画上の視点	総合計画における当該事業の位置付けが明確であり、かつ本計画の施策の推進に貢献度が高いと認められる。		○
	事業の必要性の視点	既に明らかとなっている課題や、今後予想される課題の解消に向けて、当該事業の必要性が真に認められる。		○
	事業効果の検証の視点	事業の効果が客観的に検証されている。または、事業の効果が現れていない場合であっても、その原因を分析し、有効な方策が検討または実行されている。		○

2 二次評価に基づき期待する今後の事務事業の方向性



3 その他（特記事項・評価に関する補足事項等）

生産者の技術とともに伊達産高糖度トマトの知名度や評判も向上してきており、一定程度の効果が表れている取組であることから、更なるブランド化の確立に向けた工夫を検討されることを期待します。